

2011年度

RQ被災地女性支援センター

年次活動報告書・決算報告書



Message from RQW

今いちど 3.11 を思い出してみてください。

あの日の津波の映像を、わたしたちは信じられない思いで目にしました。

強烈な畏怖の念を抱き、涙し、心から祈らずにはいられなかった日々。

動ける人はすぐに行動を起こし、物資を送り、活動に駆けつけ、支援金を振り込み、

思いを馳せ、いくつもの支援団体が被災地での活動を開始しました。

RQ市民災害救援センター(RQ)は震災直後に立ち上がり、

緊急支援に携わった団体のひとつ。

RQ被災地女性支援センター(RQW)は、RQの被災地での活動から

自ずと生まれた任意団体です。

実動部隊として活動するスタッフメンバー、それを支えるサポーター、

想いを同じくする会員による有機的な集まりです。

完全にボランティア(自発的)だからこそ、情熱と信頼と楽しさで成り立っています。

RQWは想いの実現の場であり、想いをつなげるツールでもあります。

仮設住宅での暮らしや高台移転など、これからも続く課題や

被災以前から地域が抱える困難も、他人事ではなくわたしたちの問題として考え、

「支援」という名の当事者への過度なおせっかいは差し控え、

外部者としての立場ならではの役割を果たし、

見守りながら、強い信念を持って活動を続けています。

問題から目をそらさず、見なかった振りをせず、

ただシンプルに誠実に行動したい、それがRQWです。

RQWのビジョン

被災地の復興において、女性が自らをいかし元気に活躍できる。

RQWのミッション

被災地の復興過程において女性を含む社会的弱者が
置き去りにされることがないように、また、安全な立場に置かれるように、
被災地や避難地での継続的な支援活動を
地元の行政、市民団体と連携しながら行う。



RQW 団体概要

団体名	RQ被災地女性支援センター／RQ Women's Support Center
代表	広瀬敏通 (NPO法人日本エコツーリズムセンター代表理事／ホールアース自然学校創設者・会長／(社)RQ災害教育センター代表理事)
所在地	東北本部 〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字大綱 218-1 コンテナおおあみ 東京支部 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 (社)RQ災害教育センター内
設立	2011年6月1日

●2011年度コアメンバー(役員)一覧 *印 運営委員兼務

現地 副代表：石本めぐみ* (専従)
 // 幹 事：足立千佳子*
 (NPO法人まちづくり政策フォーラム理事)
 // 幹 事：村松加恵子* (専従)
東京 幹 事：栗林美知子* (団体職員)
 // 幹 事：塩本美紀* (編集者)
 // 幹 事：佐々木薫 (VMDプランナー、(有)SKIP.代表)
仙台 幹 事：島野智之 (宮城教育大学准教授)
 // 幹 事：清野浩司 (中小企業診断士)
京都 幹 事：西村和代 ((株)カラースジャパン代表)
福岡 幹 事：太田まさ子 ((財)アジア女性交流・研究フォーラム)

●**現地メンバー** 河崎清美・新垣亜美

RQWの設立経緯

RQ市民災害救援センター(以下、RQ)^{*1}の広瀬敏通総本部長は、阪神・淡路大震災や中越沖地震など、これまで緊急支援活動に携わった自身の経験から、今回の被災地でも災害弱者への支援の必要性を感じていました。

被災地に駆けつけたRQボランティアたちは、避難所に間仕切りがない、届いても使用されていない、生理用品が小分けにして配布されている……など、女性への配慮に欠ける避難所運営の実情を耳にし、何かできることはないかと考えていました。

仙台出身でNPOまちづくり政策フォーラム理事の足立千佳子さんは仙台市内で震災に遭遇。RQの活動を知り、3月28日から総務チームとして、県外からのボランティアと地元をつなぐパイプ役を務めてきました。

4月末、ジェンダー問題に取り組む宮城学院女子大学の浅野富美枝教授やイコールネット仙台的宗方恵美子代表理事らが、登米市の男女共同参画部署と男女共同参画基本計画策定委員のメンバーのコーディネーションで、当時、登米市内に設置されていた7カ所の2次避難所をお見舞い訪問し、ジェンダーの視点を取り入れる必要性を指摘しました。この訪問をきっかけに、男女共同参画基本計画策定委員の有志メンバーが、登米市内避難所の女性支援団体として「宮城登米えがおねっと(以下、えがおねっと)」を立ち上げました。また、この訪問に同行した足立さんは、5月1日から登米市企画部市民活動支援課の男女共同参画支援員として、登米市に避難してきた女性たちの支援に携わっていきます。

5月初旬、登米市からRQに、避難所で行う女性のた

めの個別ニーズ調査への協力依頼があり、同志社大学の西村仁志准教授(当時)が、個別ニーズ調査アンケート作成の監修を行いました。その頃RQにボランティアとして参加し、調査に同行した石本めぐみさんと足立さんは調査現場でともに活動。その後、

避難所にいる約430人の女性にニーズ調査が実施され、RQでは石本さんを中心に、「えがおねっと」の活動を後方支援しながら、個別ニーズ調査の結果を物資支援に反映していきました。

5月末、足立さんと石本さんは、広瀬さんから「RQとして女性を中心とした弱者支援の活動のためのセンターを立ち上げたい」と、依頼を受けました。これまでの活動からその必要性を強く感じていた二人と、その場に居合わせた宮城教育大学の島野智之准教授、3月末から現地でボランティア活動をしていた佐々木薫さんも加わり、女性支援を行うことを決定。中長期の支援を視野に入れ、RQで実施していたチーム制の活動ではなく、独立した組織として、RQ被災地女性支援センターは6月1日に正式発足しました。



*1 宮城県登米市東和町米川の旧鱒淵小学校を拠点に2011年3月18日から東日本大震災の被災者のための緊急支援活動を始めた市民ボランティア団体。2011年3月13日発足、同年11月30日解散。

活動ダイジェスト

2011年5月～2012年3月
(敬称略)

RQ女性支援チームとして登米市内の避難所で5月から活動を開始。
地元の市民グループや行政と連携を取りながら
避難所での聞き取り、物資支援、癒しイベントなどを展開しました。



フェーズ1
2011年5～7月
(避難所支援期)

5月 11、12、13日	登米市の避難所で女性の個別ニーズ調査 (「えがおねっと」主催、登米市/RQ後方支援)：対象 430 人
5月 19、24、25、26日	避難所でハンド＆フェイスマッサージ 「わたしをいたわろう～ちょっとのんびりタイム～」 (「えがおねっと」主催。資生堂&登米市共催、RQ後方支援)：参加者 162 人
6月1日	任意団体「RQ被災地女性支援センター」を立ち上げる
6月 6、7、8日	避難所へ、ニーズ調査に基づいた支援物資を配布 (「えがおねっと」主催。登米市/RQ後方支援)：対象 273 人
6月 4、6、8、10、13日	避難所を訪問してマッサージ、ヘアカットを行う 介護士さんも訪問
6月 6、7、8日	避難所へ、ニーズ調査に基づいた支援物資を配布 (「えがおねっと」主催。登米市/RQ後方支援)：対象 273 人
7月11日	避難所の女性対象にヘアカット、スキンケアイベント。約 20 人に聞き取り調査



8月は避難所と仮設住宅への訪問を続け、9月には手づくり講座をスタート。

仮設住宅の集会所や地域の交流広場などを中心に、知り合うきっかけやコミュニケーションの場づくりを展開しました。
お母さん方に「編みものスターターキット」を配布して「講座」というかたちで始めたエコたわし製作は、
試験導入から、南三陸町、登米市、気仙沼市へと徐々に広域化しました。10月には手しごとプロジェクトをスタートし、
プロジェクトの主旨を理解してもらうために「RQWの手しごと5箇条」を設定しました。

RQ東京本部でも後方支援として女性支援チームが立ち上がり、手づくり用の物資（毛糸、ミシン、着物など）の募集や、
材料調達、個人支援者と被災地をつなぐ連絡窓口を担当しました。

フェーズ2
2011年8～10月
(コミュニティ支援パイロット期)

8月6日	コンテナおおあみにて、ハンドケアタイム&ほっとするお茶時間を開催
8月22日	南三陸町志津川中瀬町仮設住宅にて、 ハンドケアタイム&ほっとするお茶時間を開催
8月27日	登米市南方町イオン跡地（以後、南方町）仮設住宅、 納涼祭をサポート
9月5日	アトリエ「さざほざ」開設のための準備 コンテナ設置、草刈りののち、外壁ペインティング
9月11日	登米市の子育てグループ（みどり園）による 絵本読み聞かせ（南三陸町志津川中瀬町仮設住宅）
9月22日	南三陸町志津川中瀬町仮設住宅集会所 および 気仙沼市階上「はしかみ交流広場」で エコたわし講座を開催。以降10月末まで各地で計10回開催
10月15日	東京神楽坂「あかぎマルシェ」で被災地のお母さんたちによる 手づくり品のパイロット販売をスタート。以後、ほぼ毎月出店
10月22日	芋煮会&映画上映会を「太陽の犬キャラバン」と共同開催（登米市南方町仮設住宅）
10月29日	登米市最大規模の南方町仮設住宅（350戸）の近くに アトリエ「さざほざ」開設、オープニングイベント



11月以降、RQの拠点をベースに支援活動を行うフィールドを拡大。エコたわし製作に端を発した講座は、開催場所・回数も増えて、活発化しました。その過程で、楽しみとコミュニティ形成支援のための手づくり講座と、経済的自立支援を目的とする手しごと講習会を別の取り組みにする必要性を認識。

手しごと講習会では「仕事」という意識を持ってもらうようにお母さん方に働きかけました。

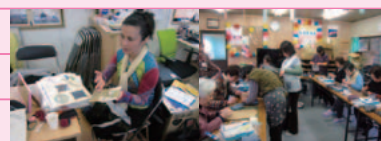
11月下旬には、仮設生活での食を見直すために、料理教室もスタート。地域に根ざした活動を継続することを目指して、地域コーディネーターの育成にも力を入れ始めました。

11月2日	石巻市名振仮設住宅集会所でエコたわしの手づくり講座を開催以降、11月は各地の集会所で計23回、手づくり講座を開催
11月29日	南三陸町戸倉・西戸仮設住宅集会所でマクロビオティック料理教室(以後、毎月場所を変えて開催)
11月30日	RQ市民災害救援センター東京本部閉鎖に伴い、RQW東京支部開設サポーター登録と、賛助会員(ファンクラブメンバー)募集開始
12月1日	登米市南方町仮設住宅第1集会所で、冬の手づくり講座以降、年内は12月25日まで、各地で計11回開催
12月上旬	歌津寄木、志津川中瀬町で、手しごととしてのエコたわし製作が本格化RQW東京支部では、材料の供給、タグの支給、在庫管理、買い取り、販売経路の拡大などバックアップの態勢づくりが進む
12月上旬	「さざぼざ」パイロット事業として、稲わらリースを製作・販売
12月3日	登米市の女性リーダー養成講座 OH!TOME (おとめ) カフェで石本が講師を務める
12月12日	日本フィランソロピー協会で石本が女性のエンパワメントの事例発表



現地では、1月から本格的に雪が降り始めます。出かけるのが難しい時期だからこそ、あたたかい交流を広げようと冬の手づくり講座に力を入れました。同じ理由から、カルチャー(お楽しみ)講座を積極的に受け入れ、あまり支援の入っていない仮設住宅を中心に展開しました。一方、手づくり講座やコーディネーター研修などを通じて地域間の連携が活発化。意見交換から、リーダーたちが意識を高め、コミュニティビジネスの種がめばえ始めました。一方、アトリエ「さざぼざ」オリジナルデザインのエコたわし「編んだもんだら」シリーズを正式にリリース。RQWのホームページも新しくなりました。

1月10日	気仙沼市水梨子仮設住宅にて年明け1回目の冬の手づくり講座。以降、3月末まで各地で計114回開催
1月13日	東松島市小野駅前郷仮設住宅にて、毎月の料理教室開始
1月14日	水墨画教室。南三陸町入谷の山の神平仮設住宅談話室ほか、2日間で3箇所開催
1月16日	毎週月曜日、アトリエ「さざぼざ」での定例会「さざぼざデー」をスタート
1月18日	第1回地域コーディネーター研修「手しごと交流会」(気仙沼階上地区)
1月21、22日	銀座気仙沼ショップでの販売会。タコのエコたわしバレンタインバージョンを製作
1月22日	東京銀座にて、第1回RQW活動報告・会員交流会開催
1月23日	(株)ダイマツ様の支援のもと、ご当地エコたわしシリーズのブランディング開始
1月26日	RQWとして気仙沼NPO/NGO連絡会に正式参加
1月31日	体操教室、南三陸町入谷童子下2期仮設住宅談話室ほか、2日間で4箇所開催
1月31日～2月4日	東北電力グリーンプラザ仙台・アクアホールにて「絆!東北のがんばる女性たち」のパネル展に出席。エコたわしのワークショップ
2月16日	登米にて地元の方を対象とした、現地ボランティア説明会
2月18日	復興カフェセミナー(仙台)にて足立がRQW活動報告
3月11日	東日本大震災市民とボランティアのつどいに参加(東北大学)
3月14日	登米市横山・若者体育館での手づくり講座。講師に石巻開成第4仮設「たんぼぼの会」のみなさん
3月16日	第2回地域コーディネーター研修「手しごと交流会」(仙台) / つばきの編み方ワークショップ(仙台・電力ビル)
3月17日	第1回手しごとスキルアップ講座(気仙沼階上地区) 講師:森岡リエさん
3月20日	RQWのホームページを公開/さざぼざ ご当地エコたわし「編んだもんだら」プレスリリース
3月24、25日	仙台で「みやぎ春のよいまつり」。小野駅前郷仮設のみなさんが出店



活動ハイライト

2011年5月～2012年3月

RQW草創期 緊急支援物資配布、リラックス系イベント

活動の原点、避難所運営に女性の視点が足りない

活動は徹底的なニーズ調査と聞き取りから

暮らしを支える女性の視点は、子どもや高齢者、障害をもった人など、支援を必要としながら自ら声をあげにくい社会的弱者に細やかな目配りをする視点にも通じています。安全安心への配慮はもちろんのこと、衣食住という人間にとって最も基本的なニーズですら「実際に家の仕事を担っている女性にしかわからない」ということがままある一方、彼女たちの声は公には反映されにくいという状況がありました。

女性たちの声を拾う必要性を感じたメンバーたちは、5月上

旬から、RQボランティアとして地元支援団体「えがおねっと」主催のニーズ調査に参加し、登米市や南三陸町の避難所で個別の聞き取りを実施。調査結果に基づいた支援物資の手配、仕分け、配布のお手伝いをしました。

また、ヘアカット、ハンド＆スキンケアなど、長期化する避難所生活での美容・衛生分野での支援とストレス軽減を目的としたリラックス系のイベントをお手伝いしながら、参加者の話をうかがいました。その後もお茶っこ（お茶のみ会）などの機会に聞き取りを続け、中長期支援の活動計画立案に取り入れていきました。

手づくり講座、お楽しみ講座

仲間づくり、コミュニティ形成支援の視点から

楽しい、ここに来るとみんなに会えるから

避難所から仮設住宅へ引っ越しをされた時期、体育館でのプライバシーのない生活に疲れきった方が、個の空間にこもってしまうことが懸念されていました。狭い住居で慣れない暮らしを余儀なくされる仮設住宅。仕事や生き甲斐を失った方々、不安や自責の念から不眠を訴える方々にとって、仮設住宅は日々小さなストレスが積み重なっていく場ともなりかねません。

RQWのメンバーは、昼間になすすべなく自宅にいる女性たちが横のつながりを持ち、互いに力をつけていく場をつくる手助けをしたいと考えます。

避難所での聞き取りから、手を動かすことによって心の落ち着きが得られ、ともにものづくりをすることで生まれるコミュニケーションや心のつながりなどが、仮設住宅内での新しいコ

ミュニティ形成に有効であるだろうと予測。60～80代の女性たちが取り組みやすいかぎ針編みを中心に助成金を得て、「手づくり講座」を展開しました。



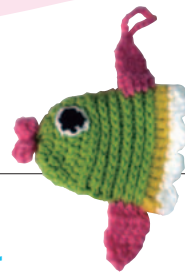
気仙沼、南三陸、石巻、登米の37カ所で114回、延べ1290人の方を対象に開催してきました。パイロット開催期（9月）の総括から、寒さで外出が億劫になる秋以降は特に、「冬の手づくり講座」と銘打って力を入れました。編み物講座ではかぎ針、とじ針、握りばさみをエコバッグまたは巾着袋にセットしたスターターキットを配布。帽子やスヌードなど、すぐに使えるあたたかい毛糸の小物づくりが好評を博しました。

仲間がひろがる参加型講座

講座での出会いをきっかけに、集会所へ出かける習慣ができるとともに、お互いに手芸を教えあったり、自宅で作った作品を披露あったり、プレゼントしたりという楽しみが見つかりました。講座終了後、ご自身たちで手づくりサークルとして活動を続けるグループも生まれています。また、手づくりが得意な地元の方、仮設集会所での講座体験者などが徐々にサポートスタッフや他地域での講師を引き受けてくださるようになり、あたたかい地域間交流が始まっています。

参加型の催しが仲間づくりに有効であるというこの経験から、手芸に限らずハンドクリームづくり、マクロビオティック料理、水墨画、体操など、講師持ち込みによる各種お楽しみ講座も、積極的に現地で受け入れ、コーディネートしてきました。





手しごとプロジェクトと「さざほざ」

復興ブームに終わらない、東北発ブランドを目指して

アトリエであり、ブランドである「さざほざ」

「手しごとプロジェクト」のゴールは手づくり品の販売を通じて女性たちに収入の道を開き、継続していくこと。指針としてRQWの手しごと5箇条をつくり、リサーチを続けながら、実現の方法を模索してきました。

9月、つくる人も思わず笑顔になる「タコのエコたわし」をメンバーの足立さんがデザイン。仕事として取り組みたいというつくり手さんグループとともに試行錯誤しながら商品化につなげました。

10月末には、手しごとプロジェクトの拠点として登米市南方町仮設のそばにコンテナのアトリエをオープン、「さざほざ」（宮城北部の言葉で「和気あいあい」という意味）アトリエと名付けました。「さざほざ」を東北の暮らしの知恵を取り入れた商品を開発・プロデュースするブランドとして立ち上げるという方針のもと、11～12月には沿岸部と内陸部の「つながり」をテーマにした「海と里の稲わらリース」の製作と販売を行いました。

エコたわし「編んだもんだら」として店頭商品に

前述の「タコのエコたわし」を皮切りに、気仙沼市から南三

陸にかけてのご当地名産品をモチーフにしたエコたわしの開発を続け、マンボウやイカ、椿、ホヤなど多くの仲間が誕生。このシリーズに「編んだもんだら」という名前をつけました（詳細は裏表紙参照）。現在、南三陸町志津川中瀬町、南三陸町歌津寄木、気仙沼市大島、登米市南方町の4カ所のグループが製作に参加しています。全国各地でRQWのサポーターたちが販売を行い、販売価格の40%をつくり手に製作料として還元。つくり手の名前タグをつけ、購入者からつくり手へのメッセージを受け付けています。被災地から発信するプロダクトであると同時に、つくる人と使う人を結ぶコミュニケーションツールとしてもその力を発揮しています。

●RQW手しごと5箇条

つながる	ものを通じたつくり手と使い手の心のコミュニケーションをめざします
めぐる	地球にやさしいものづくりをこころがけ持続可能なライフスタイルを提案します
おこす	東北の三陸地域に根づく昔ながらの知恵を掘り起こして発信していきます
ひろがる	元気な女性たちのあいだにつくり手ネットワークを築いていきます
わらう	つくる人、使う人、みんなが笑顔でいられるようにいつも考えます

地元コーディネーター育成／女性リーダー支援

地域に根付いた活動で、女性の力をより発揮していくために

RQWの活動を地元の女性たちのエンパワメントにつなげる、というビジョンのもと、中長期的な復興期を支える地域コーディネーター、女性リーダーたちの活動を物心両面から支援しています。

階上地区応援プロジェクト

気仙沼階上地区で、手づくり品の製作や販売を始めていた女性たち。その輪をひろげるため、材料調達、広報、販売などでRQWが地域コーディネーターのサポートに入りました。地区の女性が編んでいたアクリルたわしは、著作権所有者のハマナカ（株）さんのご理解のもと、チャリティ商品「気仙沼のバラ」として、RQWサポーターが全国のバザーなどで販売しています。

小野駅前郷仮設 料理教室

仮設住宅内の課題解決に取り組んでいる女性自治会長のリーダーシップのもと、孤立しがちなお年寄りへの給食サービスを実現できないかと模索しているグループへの聞き取りから、活動の第1歩として、仮設集会所での料理教室を毎月開催。料理教室で鍛えた味を、仙台市内のイベントで出店するなどして、

結束力を高めていきました。

地域コーディネーター研修

地域社会の中で、ときに孤立しやすい女性リーダー、コーディネーターたちの交流をはかり、それぞれのまちやコミュニティの復興のかたちを考える研修を、NPO法人都市デザインワークスとの協働で行っています。

「手しごと交流会」

自治会リーダーとして手しごとに取り組む方、地元の被災者支援活動の一環に手づくりを取り入れている方、講座や講習会などでまとめ役的な立場を果たしている方などの間での意見交換会。地域の課題、活動の悩みを分かち合うことで、同じ意識でがんばる仲間の連帯感がうまれています。

「手しごとスキルアップ講座」

グループでの手しごとを長期的な現金収入に結びつけたいと願うリーダーやコーディネーターたちを対象に、販売商品をつくるために必要な基礎知識を、プロの講師から学ぶ研修を行っています。材料や技術的な知識のほか、商品開発の考え方、完成度を上げる方法、チームワークの重要性などを伝えています。

RQWの活動にふれて

RQWのビジョンに共感し、活動をともに支えてくださったみなさんからの声をお届けします。

気仙沼市 NPO法人
「生活支援プロジェクト K」
スタッフ
西城宗子さん



私 たちプロジェクトKの拠点「は
しかみ交流広場」で毎週手編
み講座を共催し、参加者のみなさんと
共に楽しく活動することができました。
講座は、私たちの目的の一つである、
地域コミュニティの広がりにつながっ
ています。

南三陸町 志津川中瀬町
行政区区長
佐藤徳郎さん



仮 設住宅での生活を、それなりに
震災前と変わらない状況に戻せ
たのもRQWの日頃の活動のおかげで
す。特に、年配の方々は張り合いを見
つけることができ、閉じこもることなく
日々の生活を送っています。これから
もこの地域を見守ってください。

登米市 インキュベーション
施設「コンテナおおあみ」
マネージャー
松原忠史さん



R QWとは昨年夏にシェアオフィス
契約してからのおつきあいです。
まだ、単発的な物資支援や炊き出しが
多かったなか、その時のニーズにあっ
た、長期的、継続的な支援を考えてい
たので、共感するところがありました。

東北ウィメン応援隊
～北九州 GENKIS 共同代表
三隅佳子さん、
太田まさこさん、
北野久美さん



市 民活動の最前線で活躍する元
気な女性を中心とするグループ
です。全員異なる職業ですが、想いは
ひとつ。被災地の女性たちの間に元気
と笑顔を広げ、つながっていきたい！
エコたわしをたくさん売って応援してい
まーす。

静岡大学
教育学部
池田恵子 教授



外 から被災地支援に入った団体
で「女性支援」を正面から打ち
出したところは少ないのですが、RQW
は名前負けしない活動をしていると感
じました。刻々と変わる女性の状況に
応じて活動を継続する姿勢が見られま
した。

気仙沼地域開発株式会社
事務局長
及川順一さん



都 心で「私たちはがんばっている」
と発信していくことが重要だと
感じています。日々被災地への関心が
薄れていくなか、RQWが被災者の張
り合いとなる商品を販売するという方
法で発信を続けているのは、的を射て
いると思います。

手づくり講座、手しごとプロジェクト参加者の声

自分たちが
取り残されているのでは？
と心配になるけれど、
RQWのみんなの顔を
見るとほっとする
(歌津寄木)

2週間に1度が待ち遠しい。
家でもいろいろ編み物をして、
講座に持って行って
見てもらうのが楽しみ
(登米市南方町)



集まって編み物をしていると
津波があったことを
一瞬でも忘れられる。
ありがたいことと思っています
(気仙沼市水梨)



一番、精神的に助かったわね、
ストレス解消、
生きる源、元気
(気仙沼市はしかみ交流広場)



財産は流されたけど、
いまは講座でもらう
この編み図が財産、私の宝物
(気仙沼市はしかみ交流広場)

編み物が楽しくてねえ、
出来が少々悪くても
自分でつくったものはかわいくて
うれしくなっちゃうよ
(気仙沼市はしかみ交流広場)

活動実績

■冬の手づくり講座 実績 (2012年5月末集計)

開催した会場:45ヵ所

主な開催地域:南三陸町志津川、歌津、戸倉、入谷/気仙沼市階上、最知、水梨子、鹿折、大島、本吉/登米市南方町、横山/石巻市開成、雄勝/東松島市/岩手県一関市

開催した回数:139回

延べ参加者数:1,594人(スターターキットをお渡した人:542人)

■手しごとプロジェクト (2011年12月~2012年5月までの実績)

手づくり講座での製作品や、被災地の女性グループが独自に製作していた品々を試験的に販売するところから始め、商品化につなげていきました。おもな実績をあげた活動は以下の2つです。

◎編んだもんだらシリーズ(タコ、マンボウ、イカ、大島の椿など)

つくり手さんの人数:合計30人(2012年5月現在)

これまでの生産個数:6,052個

つくり手さんグループへのお支払い:1,872,150円

これまでの販売個数:4,900個

◎階上地区応援プロジェクト「気仙沼のバラ」(エコたわし)

つくり手さんの人数:合計25人(2012年5月現在)

これまでの生産個数:8,759個

つくり手さんグループへのお支払い:2,109,450円

(一部、同グループ作品のサンプル製品の仕入れも含む)

これまでの販売個数:6,748個



RQW東京支部 チャリティイベント出店回数:60回

*写真やポスターを展示し、現地の様子をお伝えしながらエコたわしなどの販売を行いました。

あかぎマルシェ、銀座いきなり市場(気仙沼ショップ)、中野哲学堂、ソトコロハス大賞ほか

*上記、東京支部のほか、仙台、関西、福岡のRQWメンバー、全国各地のRQWサポーターらも多くのイベント出店を行いました。

■プロジェクト運営にご協力いただいたみなさま

助成金:稲盛財団東日本大震災ボランティア助成、ジャパン・ソサエティ東日本大震災復興基金助成事業、フィランソロピーバンク東日本大震災支援基金、ちば元気ファンド「東日本大震災市民活動支援」

活動にご協力いただいている個人・団体・企業(敬称略、あいうえお順):

あかぎマルシェ事務局、池田恵子(静岡大学)、永戸茂久、株式会社太田組、株式会社ダイマツ、株式会社ドラマモード、株式会社ボプラ、株式会社フジックス、ガリバーインターナショナル、キトンズ、銀座いきなり市場、こけめ農園、駒場友の会、コンテナおおみ、生活支援プロジェクトK、手縫いクラブ 高橋恵美子、パールヨット株式会社、荻原なつ子(立教大学)、ハマナカ株式会社、ハミングバードチャリティー一般財団法人、宮城登米えがおねっと、山岡呉服店、よいコトnet、リュミエールアートスタジオ 森岡リエ、BPカストロール株式会社、NPO法人都市デザインワークス、NPO法人「人間の安全保障」フォーラムほか

(2012年度3月末時点)

賛助会員:個人 45人、法人 1社

サポーター登録者: 86人

2011年度 決算報告(概要)

2011年6月1日～2012年5月31日

収 入	¥10,588,483	支 出	¥10,588,483
寄付・会費	¥1,032,963	手しごとプロジェクト (*4)	¥5,552,678
寄付金 (*1)	¥921,963	つくり手さんへのお支払い額	¥4,021,600
会費 (*2)	¥111,000	材料費	¥1,024,150
		管理費 (*5)	¥244,767
		現地ガソリン代	¥147,846
		工事費 (*6)	¥114,315
助成金	¥3,186,609	冬の手づくり講座プロジェクト (*4)	¥1,268,640
稲盛財団	¥500,000	材料費 (スターターキット、毛糸代)	¥721,942
日本フィランソロピーバンク	¥686,609	講師謝礼 (*7)	¥268,959
市民ネットワーク千葉	¥500,000	現地ガソリン代	¥237,355
ジャパンソサイエティ	¥1,500,000	その他 (*8)	¥40,384
手しごとプロジェクト品の チャリティ販売総売上 (*3)	¥6,306,270	イベント費 (*9)	¥329,475
		現地ガソリン代	¥126,073
		消耗品・備品	¥125,360
		その他 (*10)	¥78,042
その他	¥62,641	事業管理費 (*11)	¥1,178,603
講師謝礼	¥60,000	車両維持費 (*12)	¥476,096
送料	¥2,540	旅費交通費	¥351,979
受取利息	¥101	家賃	¥270,000
		その他 (*13)	¥80,528
		次期繰越金 (*14)	¥2,259,087

(*1) 法人からの寄付はありません

(*2) 賛助会員個人 45 名、賛助企業 1 社、役員 6 名、正会員 2 名

(*3) 手しごとプロジェクトによる手づくり品を販売した商品売り上げ総額であり、商品売り上げ益ではありません。手しごとプロジェクトパイロット期の試験販売／商品開発のためのサンプル品販売／ボランティアによるサンプル品製造販売／手しごとプロジェクトにおける委託製造販売が含まれます

(*4) 手しごとおよび冬の手づくり講座プロジェクトの材料には、全国からお送り頂いた毛糸などの支援物資も活用させていただきました

(*5) 消耗品・備品、印刷費、送料、「さざほざ」電気代、振込手数料

(*6) 手しごとアトリエ「さざほざ」工事費等

(*7) 現地コーディネーター、地元の編み物講師、料理教室への講師謝礼

(*8) 消耗品・備品、会議費、送料、印刷費

(*9) 地域のイベント参加、仮設住宅でのイベント開催、南三陸町でのネットワークづくり活動など

(*10) 芋煮会等イベント材料費、会議費

(*11) 2011年度、RQWスタッフの件費はいただいております

(*12) 車両保険料、メンテナンス費用等

(*13) 消耗品・備品、会議費、通信費、振込手数料、送料、印刷費等

(*14) 複数年度にまたがる事業への助成金や寄付金などが含まれます

2012年度活動計画

支援ボランティアから地元力を高め、女性の活躍を広げていく活動へ。
RQWは2012年度あらたなフェーズに舵を切ります。

「お楽しみ講座」の発展

創造力を楽しむ手づくりのほか、お母さんがたの知的な好奇心に応える各種カルチャー講座のコーディネートと実施を続け、自主運営組織の発展、広域コミュニティづくりを支えます。



地域の女性サークルのサポート

女性サークルが直面する課題を解決する糸口を、当事者たちと共に考え、実現していきます。生産・経済活動、まちづくり、福祉など、関連の専門家との橋渡しも行います。



コミュニティビジネス「さざほざ」事業の独立

「編んだもんだら」などRQWのアトリエ「さざほざ」の活動成果が地元で継続するよう、6月に、起業支援施設「コンテナおおあみ」に「さざほざ」の運営を移管します。RQWは販売企画や広報などに力を入れていきます。

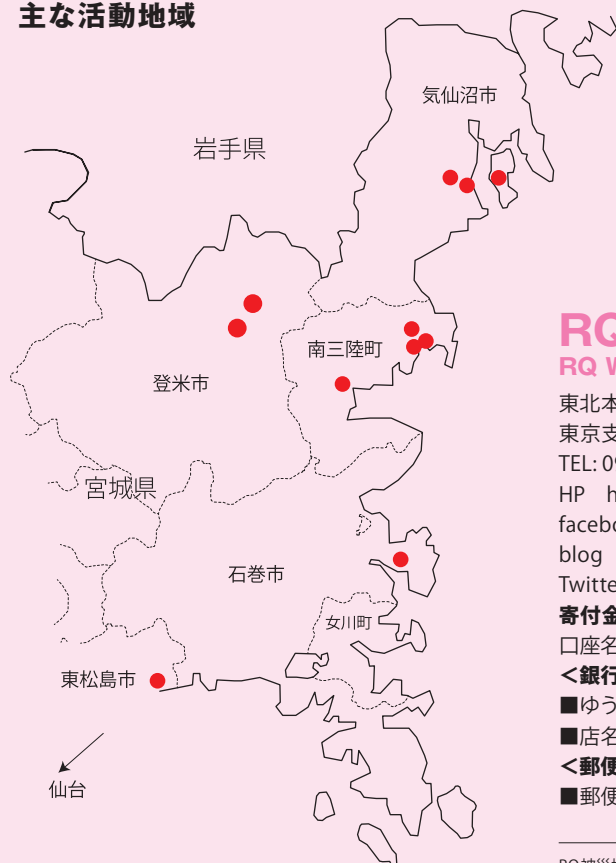


「つながる」「つたえる」サポーター活動

被災地への関心が持続していくよう、報告会や交流会、事例集の作成、展覧会、ウェブやSNSでの発信など、サポーターのつながりをいかし、現地情報を伝える活動を企画します。



主な活動地域



賛助会員になりませんか

ぜひRQWの活動を応援してください。報告会や交流会への参加ご案内のほか、ニュースレターを配信します。年会費は個人1口1,000円、企業団体10,000円となっております。

ご寄付のお願い

集まったご寄付は、RQWの活動支援金として活用させていただきます。活動を継続していくため、ご賛同くださる個人、企業、団体を問わずみなさまのご支援をお待ちしております。

RQ被災地女性支援センター RQ Women's Support Center (RQW)

東北本部：〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字大綱 218-1 コンテナおおあみ
東京支部：〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 (社)RQ災害教育センター内
TEL: 090-6065-1517 FAX: 0220-44-4202 e-mail: info@rqwomen.net
HP <http://rqwomen.net/>
facebook <http://www.facebook.com/rqwomen>
blog <http://rqwomen.blogspot.jp/>
Twitter <http://twitter.com/#!/rqwomen>

寄付金などの振込先

口座名義：RQ被災地女性支援センター

<銀行からの場合>

■ゆうちょ銀行 普通口座 ■金融機関コード 9900 ■店番 818
■店名 ハー八店(ハチイチハチ店) ■口座番号 0211416

<郵便局からの場合>

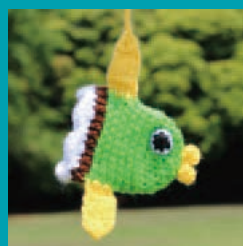
■郵便振替口座 18150-2114161

RQWと“さざほざ”による、東北発手しごとブランド



「もんだら」とは、東北弁で稲藁をよってつくったたわしのこと。昔はこのもんだらに灰や砂を使って洗い物をしたのだそう。そんなエコスタイルを受け継ぎ、うまれたのが「編んだもんだら」。洗剤をほとんど使わなくてすむアクリル毛糸製手編みタワシです。

2011年夏の終わり、すでにいくつかの仮設住宅ではじまっていたエコタワシづくり。それを商品として販売するためにオリジナルデザインづくりからはじめました。どこにでもある、誰にでもつくることができるエコタワシだからこそ、どこにもない、個性豊かな作品である必要があると考えたからです。そして、たどりついたのが「地域の特産キャラ」。地元の人たちにとって愛着のあるものを商品・ブランド化することで、つくり手、購入者ともに意味深いものになりました。現在はタコをはじめ、イカ、マンボウ、ホヤ、ヒラメ、などがうみ出されています。



使い手さんの声（購入してくださった方々からメールメッセージをいただいています。）

＊佐々木さんのつくられた蛸のエコたわしが目に留まりました。なんとも愛嬌があり、私と目がパッチリ合っていましたので買ってきました。心が和む蛸ですね。佐々木さんに似ているのかな？

＊「とうきょうのしんとみはるなといいます。たこさんつくってくれてありがとう。がんばってね。」4歳の娘がとても可愛いたこだと喜んでおります。一生懸命、自分でメールを打ちました。

＊なんと今日で4日連続、みっちゃんの赤い蛸エコたわしを使って食事の後片づけと食器洗いを私がやっているのです。うちのカミさんは実に驚いてます（笑）このたわし使っていると楽しいからね。

＊銀座で西城さんがつくられた志津川の蛸を2歳の息子が気に入り、購入しました！息子はいつの間にかベビーカーで眠ってしまいましたが大事に蛸ちゃんを握りしめて眠る姿は何とも可愛かったです。

＊会社のセールで寄木のみっちゃんがつくったたこを即ゲット。オレンジ色のがわいたこが私を呼んでいるような気がしました。たこは食べるのも大好き!!早くたこ漁が復活すると良いですね。

＊阿佐野さんのまんぼう購入しました、小物入れにします。本当に素敵な物をありがとうございます。可愛くて可愛くて電車の中でにやけてます。ブログにUPしましたら、また連絡させていただきます。

＊こちらの商品は現在「さざほざ」にて、製作・販売しています。

＜問合わせ＞ コンテナおおあみ さざほざ事業部 MAIL: info@sazahoza.kontena.jp

電話 :0220-44-4210 FAX:0220-44-4202 〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字大網 218-1

つながる、つむぐ、私たちのこころ



RQW